

平成30年7月改訂
 コンクリート構造物品質確保ガイド【ガイド】2018 改訂資料

・コンクリート構造物品質確保ガイド【ガイド】2018 改訂内容

ガイドに示された PDCA サイクルに基づき、ガイド 2017 の改訂を行った。なお、改訂内容は次のとおりである。

H29 に提出された「コンクリート施工記録」を追加して、資料1「材料等によるひび割れ抑制対策」検討例を改訂した。

【内容】

材料等によるひび割れ抑制対策の検討は、コンクリート施工記録データベースに格納された最新の記録を用いて行われ、ガイドには、その検討手法として「資料1「材料等によるひび割れ抑制対策」検討例」を掲載している。

今回の改訂では、2017年に提出された最新の「コンクリート施工記録」を追加したうえで再検討を行い、「資料1「材料等によるひび割れ抑制対策」検討例」を改訂した。なお、検討のデータを追加したものの、抑制対策の結果は2017と変わっていない。

追加したデータ件数は85リフト分であり、このうち橋台たて壁が19リフト、橋台胸壁が9リフトとなっている。データを追加した橋台たて壁のグラフを図-1、2、橋台胸壁のグラフを図-3、4に示す。今回追加データ(図中の赤色プロット)は最大ひび割れ幅が小さい範囲に分布しており、この傾向について今後も注目していく。

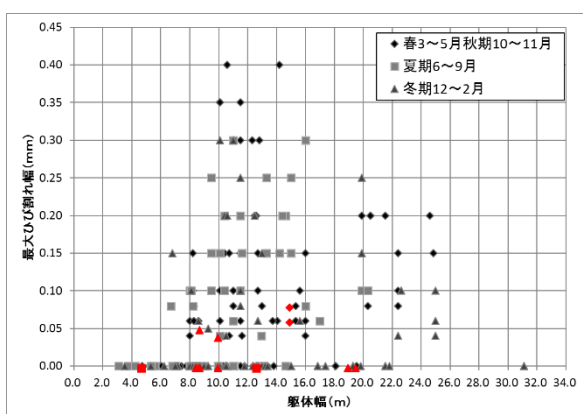


図-1 橋台たて壁における
 躯体幅と最大ひび割れ幅の関係

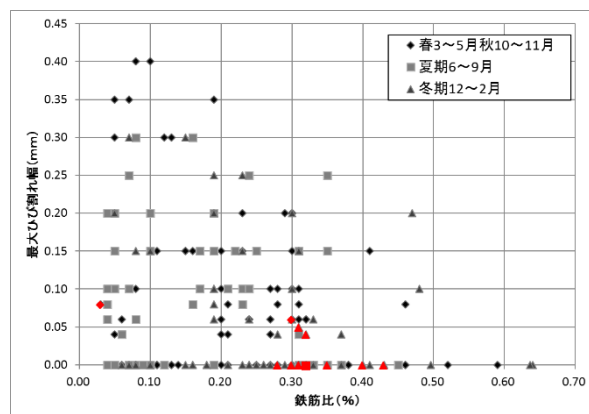


図-2 橋台たて壁における
 鉄筋比と最大ひび割れ幅の関係

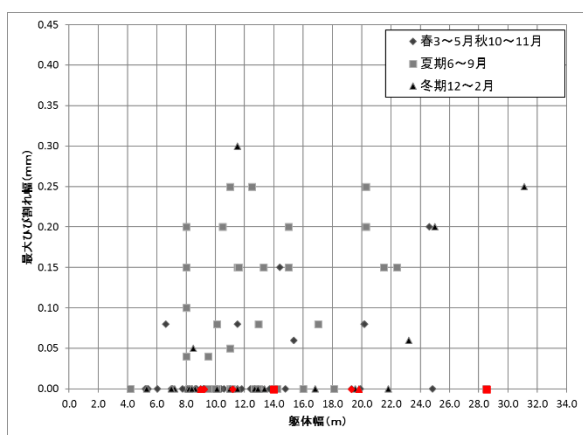


図-3 橋台胸壁における
 躯体幅と最大ひび割れ幅の関係

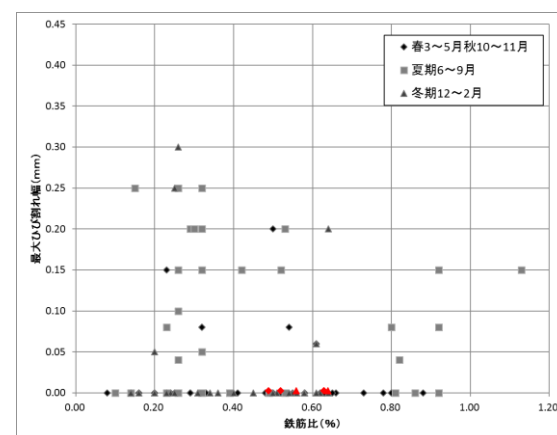


図-4 橋台胸壁における
 鉄筋比と最大ひび割れ幅の関係